

19m08

教育方法論m

班別討議



1学びのための指導・支援のあり方



全体発表

教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 回

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (学びのための指導)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ()

- ・ 水平的な関係 → 学習者同士、垂直的な関係 → 大人の時
- ・ ウィゴツキーの最近接発達領域 → プログラム型の
- ・ 系統学習とプロジェクト型の問題解決学習の長所を生かす
おのれ総合型学習システム

板書の機能 → 問題の提示、内容の確認、学習の整理確認

板書を使い「ゆさぶり」がでる

全員参加の授業と原則

さまざまな板書ととらえる、空白の時間も作る、待つ

学習形態の工夫、教室全体を見る

■肯定的 web ()

まとめ (文に省、本屋教育センター)

- ・ 授業準備段階で、板書も計画してある
- ・ 子どもたちが板書する機会も設ける
- ・ 板書について、自分の傾向をつかみ話し合うことが
できる

■否定的 web (日本協同教育学会)

まとめ ()

- ・ 子どもと正解と選んだものを競わせる授業になっていない
- ・ 1人学習で自由な時間ほど学習成果に差が生じる →
- ・ 教師が主人公になっていない

■班としての要約

まとめ ()

- ・ たまりこんでもあせらず待つことも大切
- ・ 板書は自ら立てて、良し悪しを見つづけることが難しい
- ・ 子どもの主体性を大事にしている

キーワード 10~20 語 明日中に 概念系統図

- ・ 水平的な関係、総合型学習システム、さまざまな板書ととらえる
- ・ 学習者同士、板書、待つ
- ・ 垂直的な関係、ゆさぶり、学習形態の工夫
- ・ 大人の時、全員参加の原則、教室全体を見る
- ・ ウィゴツキーの、空白の時間を作る、待つ
- ・ 最近接発達領域、ゆさぶり

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

2学習環境としての時空間



教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 回

各班ワークシート複数資料用 (まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (学習環境としての時空間)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ()

- ・伝統的な教室は「権力空間としての空間」「上意下達的な伝達システムの中にいる教師を権威化する機能」
- ・オープンスクールは伝統的な教室の問題点を解決することができる。
- ・「オンラインとしての時間」の特徴は①一方向性連続性 ②均質性 ③細切れの分断という特徴がある。
- ・伝統的な教室の時空間を変える方法として教科センター方式、異学年型クラス制、70分授業などがある。

(推定)

■肯定的 web ()

まとめ ()

- ・学校は「その時代にかかわる人間になるための成長の場・学びの場」である。

■否定的 web ()

まとめ ()

- ・オープンスクールは違うもの検索に引っかけで調べる
- ・ことができてなかった。

■班としての要約

まとめ ()

- ・伝統的な教室にも良い面があると思うのでそこを伸ばす
- ・なることに対してはどのように対応するのか不事
- ・オープンスクールのように生徒主体ですすめることができるのも積極的にやるべき
- ・その教室を用意するための費用をどのようにするかも問題

キーワード 10~20 語

明日中に

概念系統図

- ・伝統的な教室・権力空間
- ・問題点
- ・解決する
- ・連続性
- ・均質性
- ・異学年型クラス制 70分授業

- ・教師
- ・オープンスクール
- ・一方向性
- ・細切れの分断
- ・教科センター方式

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

3教育評価論としての実践記録



教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 8 回

各班ワークシート複数資料用 (まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (教育評価論としての実践記録)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (

- ・ 現代状況に合わせた教育で子どもを目的意識的に育てる
- ・ 研究想像の命がけになっている
- ・ 人間にこそ教師の生活感を反映
- ・ 芸術的性格と科学的性格を重視

■肯定的 web (学級指導要領)

まとめ (

- ・ 生徒の学習状況を的確に把握する必要性あり
- ・ 多様な側面や進捗がわかるだけ成長したかを確認する
- ・ 教師間での情報共有
- ・ 評価の量の向上

■否定的 web (教育ワークブック日記)

まとめ (

- ・ 学級通信という形で保護者に記録を伝える
- ・ 実践記録の作成と同じ
- ・ 子ども自身や指導の省察を助けることとなる

■班としての要約

まとめ (

- ・ 目的を細かくつけていくべき
- ・ 子どもの成長を大切にしていける
- ・ 教師間での情報共有

↓
弱性や信頼性の高い評価へつながる

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
・ 教育評価	・ 実践記録	・ 目的意識	・ 芸術的性格
・ 科学的性格	・ 教師	・ 生活感	・ 情報共有
・ 学級通信	・ 指導	・ よそ	・
・	・	・	・
・	・	・	・

全体発表(ICT活用例)



教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 7 回

各班ワークシート (模擬授業指導案準備)

班で討議したことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (ICT 活用例)

■ 学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

・ 学年 中学生

・ 単元 理科全般

・ 理科実験

■ 目標、内容・指導の概略等

- ・ 理科実験のために 1 班 6 人程度の班分けをする。
- ・ 各班 1 台ずつ タブレット を配る
- ・ 教師が 進めていく上で それぞれの実験の動画を 見てもらう。
(すぐ終わるような実験も「見える化」する)

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■ 教材・板書計画、評価の観点・規準等
<留意点>

- ・ 動画以外のアプリや 違う単元のものを 見ないように 机間巡視をする。
- ・ 他のアプリを 開けないような ロック をかける。

■ 工夫した点、出典等

- ・ 生徒に 興味、関心を 湧かせるような 授業展開 になるように 工夫した。

4*) 今日の授業のキーワードのうち、班別討議、全体発表での自分自身の発言に用いたものを 3 つ取

全体発表(確認問題7)



教育方法論 19m 班まとめ (発表者が書くこと)

第 回

各班ワークシート (確認問題まとめ)

1) (班内) まとめ

各問のポイント

■問1

- ・学問中心カリキュラム
- ・社会中心カリキュラム
- ・人間中心カリキュラム

■問2

模倣、文脈、間接話法、
引用、判断、交流、
受容的、批判、対象、
対抗

2) 問題全体を通して見て、全体のポイントと
思ったことをのべよ。

■ 人の意見を取り入れ、それについての

■問3



「教材の持っている性質」

「教師のわがっているもの」

「子どもたちの思考、感じ方、考え方」

■問4

系統的に教える知識伝達型
↓
知識創造型へ

↓

バランスが大事

2**) 確認問題に取り組んでみて、確認問題に取り組む時間や、問題内容と発表班との関係などについて、気づいたこと、感じたことをのべよ

